

平成21年度財団法人JK A補助事業報告

補助事業番号 21-38

補助事業名 平成21年度産業デザイン広報活動等補助事業

補助事業者名 財団法人日本産業デザイン振興会

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

デザイン振興の意味合いは、単に良いモノを作り、デザイナーの育成を行うという段階から抜け出し、モノが作り出される背景・シナリオに基づく企画・製造・販売・評価に至るまでのプロセス全体の振興を意味するものに変化してきております。

特に、グローバル化による厳しい国際競争を強いられているわが国産業界の構造を考えると、相対的に高いコスト（人件費・原材料費等）・価格に見合う「価値ある製品」を作り出すことが望まれている点がことさら重要なポイントとなってきております。当財団ではデザイン振興を通じて、この「価格に見合った価値ある製品作り」の実現により直接・間接的に機械工業の需要拡大をはかり、中小企業の振興・地域経済の活性化に貢献することを目的としております。

デザインに対する産業界の取組み姿勢は、近年とみに積極さを増して平成21年度のグッドデザイン賞（Gマーク）の応募数は、2,952点となり、不況感じさせることなくデザインに対する企業の取組みの真剣さを窺い知ることができます。また、3年目を向えたギャラリースペースの運営、リエゾンセンターにおける人材育成の取り組みなど産業界、教育界等との連携のもと、各種事業を通じてデザイン活用の有効性をPRしております。

さらに、デザイン振興はアジア地域を中心として実質的に海外への事業拡大を図るべく、情報収集の実施や基礎地盤固め等々海外展開に踏み出すべく着々と準備を進めております。

(2) 実施内容

ア. デザイン振興プラザ事業

東京ミッドタウン・タワー棟5階の一部をデザイン振興プラザとして借用し、先端デザインの発信や世界におけるデザインの現状紹介など多種多様なデザイン情報の収集・発信拠点として活用いたしました。このスペースを利用して毎回毎にテーマを設けた13回の企画展（内、財団法人JK A補助5回）を実施し来場者数も6.

1万人を達成し、国内外のデザイン情報を広くPRすることができました。特に今年度は第二段階を見据えて、タイ王国のデザイン展、香港BODW展を開催し、各方面からの注目を集めました。

また、今年度は「デザインハブ企画展」に新たな層の集客を計画し実施しましたが、

多くの来場者とメディアへの露出の増加で当初目的を達成することができました。

イ. 産学連携推進事業

① リエゾンセンター等運営事業

東京ミッドタウンの一角に「知の拠点」としてリエゾンセンターを設け、海外の教育機関11校と国内企業の共同研究、各種セミナーの開催（8回実施）のための「場」の提供と実施のためのサポートを行いました。また海外連携各機関を中心とし、参加者数約100名規模で実施した国際シンポジウムを開催（1回）いたしました。

特に、今年度においては、事業の一層強化を図るため、上記に加え能力開発研究会・デザイナー・スキルスタンダードの研究など意欲的に新たな展開を試みました。また、リエゾンセンターの活動を更に周知させる意味合いから広報Webサイトの運用に努めました。

② 人材育成・活用事業

「デザインイニシアティブな方法」（製品等の将来的なあり方をデザインで率先し、賛同を得て開発の方針を進める等）の普及のため、産業界各社・デザイン系大学の融合による企画展「デザインコミュニケーション」を開催いたしました。この企画展は東京ビッグサイトにて2009年8月28日から3日間開催したグッドデザインエキスポ（略称GDE）に併設された特別企画展として実施し、来場者数は43,300人（GDE入場者数）を数えました。

今年度は、「近未来の商品のデザイン提案」等グッドデザイン賞におけるフロンティアデザイン領域との融合を図り来場者のみでなく各種メディア等への露出もあり、学生と企業のマッチング効果も大きく期待できる内容となりました。

2. 予想される事業実施効果

ア. デザイン振興プラザ事業

このプラザ・スペースを有効活用することによって国内外の良質デザインの多角的・多面的な広報・発信を行い産業デザインにインパクトを与え続けることができます。また企業、デザイナー、教育機関等広範囲にわたるデザイン関連の情報収集・発信を行い産業デザインのレベルアップを強力に推し進めることができます。

今年度より実施した海外連携のデザイン展は事業実施の第二段階への足がかりとなり、今年度においては国内における海外展に加えて海外で実施する日本のデザインを実施する等々着実に準備が進行しております。

イ. 産学連携推進事業

① リエゾンセンター等運営事業

国際的に著名な国内外のデザイン研究機関や国内企業、デザイン系学生の連携によって開催された国際シンポジウムや各種セミナー、これを紹介した当財団HPは広く発信され、参加者はもとより企業をはじめとする関係各所の注目をあつめました。これらを契機として海外研究機関への留学や新たな産学協同プロジェクトの発生等々すでに新しい展開も芽生え、グローバルな高度デザイン専門教育の中心的機能としての役割は確実に増進しております。

また、昨年度に開始したスキルスタンダードの研究・能力開発研究会等の事業活動は好評価を得ました。今年度は従来よりの有力研究機関8機関に加えて国内・海外含めて7機関を新たに加え事業拡大を図り高度デザイン・国際化増進の一助となることが期待されます。

② 人材育成・活用事業

特別企画展「デザインコミュニケーション」の開催に対する出展はデザイン先進企業14社、デザイン系大学6校と計20団体の参加をみました。内容もより高度となり来場者・報道機関の注目を集めました。産学共同の「場」を提供することにより、学生に作品発表の機会を与え、企業と学生のマッチングサポートを行うことによって学生、産業界ともに今後の充実した展開につながってゆくことが見込まれます。特に、近未来デザインへの関心度は企業・学生ともに高くマッチングの好機会となることが容易に見通せます。

3. 本事業により作成した印刷物等

国際シンポジウム パンフレット。

4. 事業内容についての問い合わせ

団 体 名 : 財団法人日本産業デザイン振興会 (ザイダンホウジン ニホンサンギョウデザインシンコウカイ)
住 所 : 107-6205
東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー5階
代 表 者 名 : 理事長 飯塚 和憲 (イツカ カズノリ)
担 当 部 署 : 総務部 (ソウムブ)
担 当 者 名 : 次長 若木 潔 (ワカキ キヨシ)
電 話 番 号 : 03-6743-3772
F A X 番 号 : 03-6743-3775
E - m a i l : wakaki@jidpo.or.jp
U R L : <http://www.jidpo.or.jp>